

中外炉工業

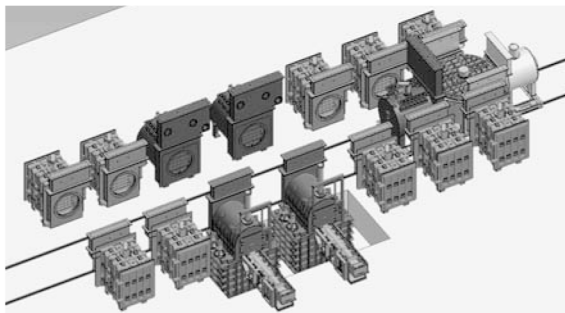
量産型真空浸炭炉

富士重からライン受注

中外炉工業は富士重工業から自動車用変速機部品の熱処理向けに、量産型の真空浸炭炉ライン一式を受注した。富士重の生産能力増強に伴い、群馬製作所大泉工場（群馬県大泉町）に新設する設備として、2015年秋の納入を見込む。さらに今後の受注増に向け、自社でも2億数千円を投じて受託テスト対応用の真空浸炭設備を開発し、ライン一式を15年4月をめどに堺事業所（堺市西区）に設置する。3年後に真空浸炭炉システムで年30億円の受注を目指す。

変速機部品熱処理向け

受注した真空浸炭炉は、油焼き入れ室を両面に配置する。1回当たり処理量を900kgと従来



の量産型真空浸炭炉の1/5倍に高めてラインの

量産型真空浸炭炉ラインの一例

構成設備を少なくし、初期費用と運用コストを約3割低減。材料搬送装置に回転機構を設け両面配置を可能にし、従来の片面配置に比べ設置スペースも約3割縮小した。

真空浸炭炉は、変速機部品の熱処理で主流のガス浸炭炉に比べて高温で早く処理でき、不純物が入りにくい

ため品質面でも優れている。二酸化炭素(CO₂)排出量も少なく、自動車や自動車部品の各メーカーのガス浸炭炉からの切り替え需要が増えつつある。1970-80年代に自動車メーカーに納入したガス浸炭炉が更新時期を迎えており、中外炉工業では真空浸炭炉の提案も強化する。

同社はガス浸炭炉を54年に製作開始し1000基以上の納入実績がある。真空浸炭処理技術は研究を10年以上行い、今年4月に技術や製品の開発を担う社長直轄の専門部署「真空浸炭プロジェクト」を立ち上げ、8人体制で活動する。ガス浸炭炉に加え、普及が進む真空浸炭炉にも対応できる強みを生かし関連事業を拡大する。